

<p>1. プログラム名称</p>
<p>総合診療専門研修プログラム「松前塾 「ルーラルジェネラリストへの道」</p>
<p>2. 専攻医定員</p>
<p>原則 1 学年あたり 2 名とする</p>
<p>3. プログラムの期間</p>
<p>(4) 年間</p>
<p>4. 概要</p>
<p>A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長</p> <p>医療圏人口約 12000 人で唯一の入院施設である当院は、北海道最南端に位置し都市部(函館市)から 95km、車で 2 時間離れた遠隔地にある。「地域で必要とされる医療」を真っ正面から考え、実践することを求められる土地で科にとられることなく、患者と向き合っている。また、地元で完結するだけでなく、3 次医療機関からの慢性期、終末期の受け入れを行うケース、3 次医療機関への搬送を必要とするケースを適したタイミングで搬送していることから、周辺医療との連携も確立しつつあり病院の壁を越え、道南地域全体で住民の医療を支える一助を担っている。一方で、札幌医科大学の地域医療実習選択の場でもあり、学生がほぼ通年実習に来るだけでなく、全国から初期研修医の地域研修を受け入れており、学生、初期研修医の教育病院としても盛んである。</p>
<p>B. プログラムの理念、全体的な研修目標</p> <p>(理念) 患者に問わず、どのような訴えで来院されても初期対応し、可能な限り地元での継続診療を行う。必要であれば、高次医療機関へ適したタイミングで搬送を決定する。」ことが出来るような、地域で必要とされる医療に関心を有する医師(rural generalist)を養成する。</p> <p>(研修目標) この研修プログラムを終了した医師が、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の年齢・性別・疾患を問わず、一次医療を供給する能力を示すことができること ・患者やその家族の社会・心理・経済的背景を考慮に入れた医療を展開する能力を示すことができること ・終了する年度の医学水準に照らして妥当な知識および技能を示すことができること ・自立して生涯学習を行う能力を示すことができること ・医師として長く働くことが出来るように心身の健康を保つ自己管理能力を示すことができること ・医学生や研修医に対して、成人教育の理論に基づいた効果的な教育を行う能力を示すことができること
<p>C. 研修期間を通じて行われる勉強会・カンファレンス等の教育機会</p> <p>(例) 定期的な TV 会議システムによるカンファレンス・経験省察研修録(ポートフォリオ)勉強会や作成指導等</p> <p>症例カンファレンス：火、金曜日(7 時 30 分～8 時 30 分)</p> <p>外来カンファレンス、院内勉強会：隔週で木曜日(8 時～8 時 30 分)</p> <p>インターネット勉強会(プライマリケアカンファレンス)：水曜日(7 時 30 分～8 時)</p> <p>インターネット勉強会(プライマリケアレクチャーシリーズ)：木曜日(7 時 30 分～8 時)</p> <p>他病院をローテーション中も 2 週間に一度インターネットでの振り返り(経験省察研修録(ポートフォリオ)発表など)を行い、研修医の研修状況を把握し、研修先での悩みなど相談も聞くことでよりよい研修を行えるよう研修先病院とともに適宜連絡を取ることで研修の質を担保する。その他、地域の救急隊との勉強会(3 ヶ月に一度)、介護職員対象勉強会(3 ヶ月に一度)など他職種との勉強会を行うことにより情報共有・意見交換を通じチーム医療スキルの向上を図る。</p>

D. ローテーションのスケジュールと期間

(4年以上のプログラムの場合は、枠を増やして4年目以降のローテーションについても記載すること)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	施設名	松前町立松前病院						市立函館病院					
	領域	総診Ⅰ						内科					
2年目	施設名	松前町立松前病院			函館脳神経外科病院			市立函館病院			市立函館病院		
	領域	総診Ⅰ			その他			救急			小児科		
3年目	施設名	江別市立病院						松前町立松前病院			函館おしま病院		
	領域	内科						総診Ⅰ			その他		
4年目	施設名	砂川市立病院						松前町立松前病院					
	領域	総診Ⅱ						総診Ⅰ					

特記事項 ()

※ 代表的な例を書いてください。募集定員全員のローテーション表は不要です。

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (18) カ月		総合診療専門研修Ⅱ (6) カ月	
領域別 研修	内科 (12) カ月	小児科 (3) カ月	救急科 (3) カ月	その他 (6) カ月

※ローテーションする施設によって研修期間が異なる場合(例えば、総合診療専門研修ⅠがA診療所なら6ヶ月、B診療所なら9ヶ月など)、これらの表はコピー&ペーストして複数作成してください。

※「総診Ⅰ」、「総診Ⅱ」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という表記で記入してください。

※整備基準にある「平成30年度からの3年間に専門研修が開始されるプログラムについては、専門研修施設群の構成についての例外を日本専門医機構において諸事情を考慮して認めることがある。」との規定を踏まえ、3年間の研修プログラムにおいても、最大6か月間の選択研修が認められます。ただし、その場合でも、各研修科の研修期間の要件を満たすことが必要です。

※「総診Ⅰ」と「総診Ⅱ」を同時に研修することはできません。また、原則として異なる医療機関での研修を実施する必要があります。

※原則として、都道府県の定めるへき地に専門研修基幹施設が所在するプログラム、あるいは研修期間中に2年以上のへき地での研修を必須にしているプログラムにおいて、ブロック制で実施できない合理的な理由がある場合に限り、小児科・救急科の研修をカリキュラム制で実施することが認められます。該当する場合は、特記事項に詳細を記入してください。

5. 準備が必要な研修項目

地域での健康増進活動

- 実施予定場所 (松前町立松前病院)
- 実施予定の活動 (町内での訪問診療、町民向けの医療講演活動、小児・成人健診等)
- 実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか
- (1~4 年目を通して、基幹病院である松前町立松前病院をローテーション中に随時行う)

教育 (学生、研修医、専門職に対するもの)

- 実施予定場所 (松前町立松前病院)
- 実施予定の活動 (学生・初期研修医への教育、コメディカル・救急隊対象の医療講演・勉強会など)
- 実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか
- (1~4 年目を通して、基幹病院である松前町立松前病院をローテーション中に随時行う)

研究

- 実施予定場所 (松前町立松前病院、砂川市立病院、市立函館病院等)
- 実施予定の活動 (症例報告、質的研究などの学会発表、及び論文発表を行う)
- 実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか
- (松前町立病院、総診 II 連携施設、内科をローテーション中に随時行う)

6. 専攻医の評価方法 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))

※形成的評価と総括的評価を研修修了認定の方法も含めて具体的に記入してください。

形成的評価

- 研修手帳の記録及び定期的な指導医との振り返りセッションを定期的実施する (頻度: 1~2 ヶ月毎)
- 経験省察研修録 (ポートフォリオ) 作成の支援を通じた指導を行う (頻度: 1~2 ヶ月毎)
- 作成した経験省察研修録 (ポートフォリオ) の発表会を行う (頻度: 年 1~2 回 参加者の範囲: 院内・近隣施設の医師および医療職・介護職員)
- 実際の業務に基づいた評価 (Workplace-based assessment) を定期的実施する (頻度: 3 ヶ月に 1 回)
- 多職種による 360 度評価を各ローテーション終了時等、適宜実施する
- 年に複数回、他の専攻医との間で相互評価セッションを実施する
- ローテート研修における生活面も含めた各種サポートや学習の一貫性を担保するために専攻医にメンターを配置し定期的に支援するメンタリングシステムを構築する
- メンタリングセッションは数ヶ月に一度程度を保証する

総括的評価

- 総合診療専門研修 I・II の研修終了時には、研修手帳に専攻医が記載した経験目標に対する自己評価の確認と到達度に対する評価を総合診療専門研修指導医が実施する。
- 内科ローテート研修において、症例登録・評価のため、内科領域で運用する専攻医登録評価システム (Web 版研修手帳) による登録と評価を行う。研修終了時には病歴要約評価を含め、技術・技能評価、専攻医の全体評価結果を内科指導医が確認し、総合診療プログラムの統括責任者に報告する。
- 3 ヶ月の小児科の研修終了時には、小児科の研修内容に関連した評価を小児科の指導医が実施する
- 3 ヶ月の救急科の研修終了時には、救急科の研修内容に関連した評価を救急科の指導医が実施する
- 以下の基準でプログラム統括責任者はプログラム全体の修了評価を実施する
 - (1) 研修期間を満了し、かつ認定された研修施設で総合診療専門研修 I および II 各 6 ヶ月以上・合計 18 ヶ月以上、内科研修 12 ヶ月以上、小児科研修 3 ヶ月以上、救急科研修 3 ヶ月以上を行っており、それぞれの指導医から修了に足る評価が得られている
 - (2) 専攻医自身による自己評価と省察の記録、作成した経験省察研修録 (ポートフォリオ) を通じて、到達目標がカリキュラムに定められた基準に到達している
 - (3) 研修手帳に記録された経験目標が全てカリキュラムに定められた基準に到達している
 なお、研修期間中複数回実施される、医師・看護師・事務員等の多職種による 360 度評価 (コミュニケーション、チームワーク、公益に資する職業規範) の結果も重視する

研修修了認定の方法 (総括的評価結果の判断の仕方・修了認定に関わるメンバー)

修了判定会議のメンバー

- 研修プログラム管理委員会と同一
- その他 ()

修了判定会議の時期 (3 年目ローテーション修了時に中間評価、4 年目ローテーション修了後 5 月頃修了判定)

(研修プログラム管理委員会で協議し、判定時期の調整を行う場合あり)

7. プログラムの質の向上・維持の方法	
研修プログラム管理委員会	
委員会の開催場所 (松前町立松前病院)	
委員会の開催時期 (3月に次年度の研修について開催、以降2~3ヶ月に1回程度定期的に開催する)	
専攻医からの個々の指導医に対する評価	
評価の時期 (各ローテーション終了時、および各年次終了時)	
評価の頻度 (内科・小児科・救急・その他はローテーション終了時に一度、総診Ⅰ・総診Ⅱは6~12ヶ月毎程度)	
評価結果の利用法 (指導医にフィードバックし、また研修プログラム管理委員会で協議する。研修中の専攻医がより良い研修が可能となるよう指導環境を調整し、また当プログラムの質の向上を計る。)	
研修プログラムに対する評価	
評価の時期 (随時)	
評価の頻度 (随時)	
評価結果の利用法 (研修プログラム管理委員会で協議し、改善すべき点があれば随時調整する)	

8. 専門研修施設群	
<p>基幹施設の施設要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))</p> <p>■総合診療専門研修Ⅰの施設基準を満たしている。 ■総合診療専門研修Ⅱの施設基準を満たしている。 □大学病院で研修全体の統括組織としての役割を果たしている、あるいは適切な病院群を形成している施設である。</p> <p>研修施設群全体の要件。 ■総合診療専門研修Ⅰとして、のべ外来患者数 400名以上/月、のべ訪問診療件数 20件以上/月である。 ■総合診療専門研修Ⅱとして、のべ外来患者数 200名/月以上、入院患者総数 20名以上/月である。 ■小児科研修として、のべ外来患者数 400名以上/月である。 ■救急科研修として、救急による搬送等の件数が1000件以上/年である。</p> <p>地域医療・地域連携への対応 ■へき地・離島、被災地、医療資源の乏しい地域での研修が1年以上である。 具体的に記載： 施設名 (松前町立松前病院) 市町村名 (北海道松前郡松前町) 研修科目 (総診Ⅰ) 研修期間 (18か月) 施設名 (砂川市立病院) 市町村名 (北海道砂川市) 研修科目 (総診Ⅱ) 研修期間 (6か月) 施設名 () 市町村名 () 研修科目 () 研修期間 () か月)</p> <p>■基幹施設がへき地※に所在している。 ■へき地※での研修期間が2年以上である。 具体的に記載： 施設名 (松前町立松前病院) 市町村名 (北海道松前郡松前町) 研修科目 (総診Ⅰ) 研修期間 (18か月) 施設名 (砂川市立病院) 市町村名 (北海道砂川市) 研修科目 (総診Ⅱ) 研修期間 (6か月) 施設名 () 市町村名 () 研修科目 () 研修期間 () か月)</p> <p>※過疎地域自立推進特別措置法に定める過疎地域。詳細は総務省ホームページ参照 http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm http://www.soumu.go.jp/main_content/000456268.pdf</p>	

9. 基幹施設			
研修施設名	松前町立松前病院		
所在地	住所 〒049-1593 北海道松前郡松前町字大磯 174-1 電話 0139-42-2515 FAX 0139-42-2516 E-mail hospital@e-matsumae.com		
プログラム統括責任者氏名	八木田 一雄	指導医登録番号	
プログラム統括責任者 部署・役職	松前町立松前病院・病院長		

事務担当者氏名	佐々木 俊典
連絡担当者連絡先	住所 〒049-1593 北海道松前郡松前町字大磯 174-1 電話 0139-42-2515 FAX 0139-42-2516 E-mail k-yagita@woody.ocn.ne.jp (八木田) toshinori.sasaki@town.matsumae.hokkaido.jp (佐々木)
基幹施設の 카테고리	■総合診療専門研修Ⅰの施設 □総合診療専門研修Ⅱの施設 □大学病院
基幹施設の所在地	二次医療圏名 (南渡島) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である →■はい □いいえ
<p>施設要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))</p> <p>■総合診療以外の 18 基本診療領域の基幹施設機能を、本プログラム統括責任者が所属する診療科あるいは部門では担当していない (プログラム基幹施設の役割を診療科・部門が兼任していない)</p> <p>■本プログラム以外の総合診療専門研修プログラムを本基幹施設は運営していない</p> <p>■プログラム統括責任者が常勤で勤務し、コーディネーターとしての役目を十分果たせるように時間的・経済的な配慮が十分なされている</p> <p>■専門研修施設群内での研修情報等の共有が円滑に行われる環境 (例えば TV 会議システム等) が整備されている</p> <p>■プログラム運営を支援する事務の体制が整備されている</p> <p>■研修に必要な図書や雑誌、インターネット環境が整備されている</p> <p>※研修用の図書冊数 (約 500 冊)</p> <p>※研修用の雑誌冊数 (約 1000 冊)</p> <p>※専攻医が利用できる文献検索や二次資料の名称 (UpToDate、メディカルオンライン)</p> <p>※インターネット環境</p> <p>■LAN 接続のある端末</p> <p>■ワイヤレス</p> <p>■自施設で臨床研究を実施したり、大学等の研究機関と連携した研究ネットワークに加わったりするなど研究活動が活発に行われている</p> <p>具体例 (院内で臨床研究論文の批判的吟味を行うジャーナルクラブを定期的で開催している。またプライマリ・ケア連合学会での発表活動を行っている。札幌医科大学地域医療総合医学講座と連携し、質的・量的研究の手法について学ぶことも可能である。)</p>	

10. 連携施設	
連携施設名	市立函館病院
所在地	住所 〒041-8680 北海道函館市港町1丁目10番1号 電話 0138-43-2000 FAX 0138-43-4434 E-mail hmh@hospital.hakodate.hokkaido.jp
連携施設担当者氏名	成瀬 宏仁
連携施設担当者 部署・役職	副院長
事務担当者氏名	浅井 恭子
連絡担当者連絡先	住所 〒041-8680 北海道函館市港町1丁目10番1号 電話 0138-43-2000(内線 4208) FAX 0138-43-4434 E-mail hmh@hospital.hakodate.hokkaido.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (南渡島) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である →□はい ■いいえ
10. 連携施設	
連携施設名	社会福祉法人函館厚生院 函館中央病院
所在地	住所 〒040 -8585 函館市本町33番2号 電話 0138-52-1231 FAX 0138-54-7520

	E-mail hisyoka@hakochu-hp.gr.jp
連携施設担当者氏名	吉野 信幸
連携施設担当者 部署・役職	秘書課長
事務担当者氏名	吉野 信幸
連絡担当者連絡先	住所 〒040 -8585 函館市本町3 3 番2号 電話 0138-52-1231 FAX 0138-54-7520 E-mail yoshino-n@hakochu-hp.gr.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (南渡島) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	社会福祉法人 函館厚生院 函館五稜郭病院
所在地	住所 〒040-8611 北海道函館市五稜郭町38 番3号 電話 0138-51-2295 FAX 0138-56-2695 E-mail scrum@koseiin.or.jp
連携施設担当者氏名	田中 雄大
連携施設担当者 部署・役職	臨床研修管理室主任
事務担当者氏名	臨床研修管理室 田中 雄大
連絡担当者連絡先	住所 〒040-8611 北海道函館市五稜郭町38 番3号 電話 0138-51-2295 FAX 0138-56-2695 E-mail scrum@koseiin.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (南渡島) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	社会福祉法人函館共愛会 共愛会病院
所在地	住所 〒040-8577 北海道函館市中島町7 番21号 電話 0138-51-2111 FAX0138-51-2631 E-mail info@kyoaikai-hosp.com
連携施設担当者氏名	水島 豊
連携施設担当者 部署・役職	内科 院長
事務担当者氏名	萩野 盛
連絡担当者連絡先	住所 〒040-8577 北海道函館市中島町7 番21号 電話 0138-51-2111 FAX0138-51-2631 E-mail s.hagino@kyoaikai-hosp.com
連携施設の所在地	二次医療圏名 (南渡島) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	社会福祉法人北海道社会事業協会函館病院
所在地	住所 〒042-0935 電話 0138-53-5511 FAX 0138-51-5511

	E-mail t-katamoto@hokukshakyo.jp
連携施設担当者氏名	加藤 康次
連携施設担当者 部署・役職	部署：事務部 役職：総務課 兼 財務・管財課長
事務担当者氏名	加藤 康次
連絡担当者連絡先	住所 〒042-0935 電話 0138-53-5511 FAX 0138-51-5511 E-mail t-katamoto@hokukshakyo.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 南渡島 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	北海道立江差病院
所在地	住所 〒043-0022 檜山郡江差町字伏木戸町 484 番地 電話 0139-52-0036 FAX 0139-52-0098 E-mail
連携施設担当者氏名	波江 清貴
連携施設担当者 部署・役職	庶務課 主幹
事務担当者氏名	波江 清貴
連絡担当者連絡先	住所 〒043-0022 檜山郡江差町字伏木戸町 484 番地 電話 0139-52-0036 FAX 0139-52-0098 E-mail
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 南檜山 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	函館おしま病院
所在地	住所 〒040-0021 函館市市場町 19 番 6 号 電話 0138-56-2308 FAX 0138-56-2316 E-mail chimoto204@oshima-hp.or.jp
連携施設担当者氏名	福德 雅章
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	地本 隆利
連絡担当者連絡先	住所 〒040-0021 電話 0138-56-2308 FAX 0138-56-2316 E-mail chimoto204@oshima-hp.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 南渡島 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	医療法人社団函館脳神経外科 函館脳神経外科病院
所在地	住所 〒041-8609 函館市神山 1 丁目 4-12 電話 0138-53-6111 FAX 0138-55-3327

	E-mail h-neuro@wonder.ocn.ne.jp
連携施設担当者氏名	西谷 啓太
連携施設担当者 部署・役職	事務部 事務部長
事務担当者氏名	西谷 啓太
連絡担当者連絡先	住所 〒041-8609 函館市神山1丁目4-12 電話 0138-53-6111 FAX 0138-55-3327 E-mail h-neuro@wonder.ocn.ne.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (南渡島) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	函館稜北病院
所在地	住所 〒041-0853 函館市中道2丁目51番1号 電話 0138-54-3113 FAX 0138-32-0106 E-mail ryohoku@donank.jp
連携施設担当者氏名	川口 篤也
連携施設担当者 部署・役職	総合診療科 科長
事務担当者氏名	増田 清治
連絡担当者連絡先	住所 〒041-0853 電話 0138-54-3113 FAX 0138-32-0106 E-mail ikyo-314@donannk.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (南渡島) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	北海道立羽幌病院
所在地	住所 〒078-4197 苫前郡羽幌町栄町110番地 電話 0164-62-6060 FAX 0164-62-6050 E-mail
連携施設担当者氏名	佐々尾 航
連携施設担当者 部署・役職	副院長
事務担当者氏名	菅原 英徳
連絡担当者連絡先	住所 〒078-4197 苫前郡羽幌町栄町110番地 電話 0164-62-6060 FAX 0164-62-6050 E-mail sugawara.hidenori@pref.hokkaido.lg.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (留萌) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	足寄町国民健康保険病院
所在地	住所 〒089-3712 足寄郡足寄町南2条3丁目1番地 電話 0156-25-2155 FAX 0156-25-2158

専門研修プログラムの概要と診療実績

	E-mail murakami.hideyuki@town.ashoro.hokkaido.jp
連携施設担当者氏名	村上 英之
連携施設担当者 部署・役職	院長（内科）
事務担当者氏名	事務長 川島 英明
連絡担当者連絡先	住所 〒089-37 電話 0156-25-2155 FAX 0156-25-2158 E-mail kawashima.hideaki@town.ashoro.hokkaido.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 十勝 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	町立厚岸病院
所在地	住所 〒088-1195 電話 0153-52-3145 FAX 0153-52-6137 E-mail atubyoso@xpost.plala.or.jp
連携施設担当者氏名	佐々木 暢彦
連携施設担当者 部署・役職	病院長
事務担当者氏名	土肥 正彦
連絡担当者連絡先	住所 〒088-1195 電話 0153-52-3145 FAX 0153-52-6137 E-mail akkeshi-hp-incho@cpost.plala.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 釧路 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	幌加内町立幌加内診療所
所在地	住所 〒074-0412 北海道雨竜郡幌加内町親和 電話 0165-35-2321 FAX 0165-35-2323 E-mail morisaki@sapmed.ac.jp
連携施設担当者氏名	森崎 龍郎
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	蔵前 裕幸
連絡担当者連絡先	住所 〒074-0412 北海道雨竜郡幌加内町親和 電話 0165-35-2321 FAX 0165-35-2323 E-mail morisaki@sapmed.ac.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 上川中部 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	むかわ町国民健康保険穂別診療所
所在地	住所 〒054-0211 電話 0145-45-2121 FAX 0145-45-2741

	E-mail
連携施設担当者氏名	夏目 寿彦
連携施設担当者 部署・役職	所長
事務担当者氏名	藤江 伸
連絡担当者連絡先	住所 〒054-0211 電話 0145-45-2121 FAX 0145-45-2741 E-mail natsume@dc5.so-net.ne.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 東胆振 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	礼文町国民健康保険船泊診療所
所在地	住所 〒097-1111 電話 0163-87-2771 FAX 0163-87-2594 E-mail sinryo01@pluto.plala.or.jp
連携施設担当者氏名	升田 鉄三
連携施設担当者 部署・役職	礼文町国保船泊診療所所長
事務担当者氏名	事務長 石動 昭彦
連絡担当者連絡先	住所 〒097-1111 電話 0163-87-2771 FAX 0163-87-2594 E-mail f-sinryo@atlas.plala.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 宗谷 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	亀田ファミリークリニック館山
所在地	住所 〒294-0051 千葉県館山市正木 4304-9 電話 0470-20-5520 FAX 0470-20-5521 E-mail tadaookada@gmail.com
連携施設担当者氏名	粕谷 奈美
連携施設担当者 部署・役職	亀田ファミリークリニック館山 医局秘書
事務担当者氏名	粕谷 奈美
連絡担当者連絡先	住所 〒294-0051 千葉県館山市正木 4304-9 電話 0470-20-5520 FAX 0470-20-5521 E-mail office.kfct@gmail.com
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 安房 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	西伊豆健育会病院
所在地	住所 〒410-3514 静岡県賀茂郡西伊豆町仁科 138-2 電話 0558-52-2366 FAX 0558-52-2369

	E-mail info@nishiizu.gr.jp
連携施設担当者氏名	朝賀 瑞乃
連携施設担当者 部署・役職	医局秘書
事務担当者氏名	朝賀 瑞乃
連絡担当者連絡先	住所 〒410-3514 静岡県賀茂郡西伊豆町仁科 138-2 電話 0558-52-2366 FAX 0558-52-2369 E-mail m-asaka@nishiizu.gr.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (賀茂) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	砂川市立病院
所在地	住所 〒073-0196 北海道砂川市西4条北3丁目1番1号 電話 0125-54-2131 FAX0125-54-0101 E-mail :m3kusaka@med.sunagawa.hokkaido.jp
連携施設担当者氏名	日下 大隆
連携施設担当者 部署・役職	総合内科・副院長
事務担当者氏名	森田 康晴
連絡担当者連絡先	住所 〒073-0196 北海道砂川市西4条北3丁目1番1号 電話 0125-54-2131 FAX0125-54-0101 E-mail :ymorita@med.sunagawa.hokkaido.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (中空知) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である →■はい □いいえ
10. 連携施設	
連携施設名	広域紋別病院
所在地	住所 〒094-8709 紋別市落石町1丁目3番37号 電話 0158-24-311 FAX 0158-24-3112 E-mail ustak49s@khaki.plala.or.jp
連携施設担当者氏名	曾ヶ端 克哉
連携施設担当者 部署・役職	外科 副院長
事務担当者氏名	西田 尚市
連絡担当者連絡先	住所 〒094-8709 紋別市落石町1丁目3番37号 電話 0158-24-31 FAX 0158-24-3112 E-mail n-nishida_m@mombetsu-hospital.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (遠紋) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	社会医療法人清風会 岡山家庭医療センター 奈義ファミリークリニック
所在地	住所 〒708-1323 岡山県勝田郡奈義町豊沢 292-1 電話 0868-36-3012 FAX 0868-36-6435

	E-mail info@fpcokayama.com
連携施設担当者氏名	松下 明
連携施設担当者 部署・役職	所長
事務担当者氏名	町田 亜樹
連絡担当者連絡先	住所 〒708-1323 岡山県勝田郡奈義町豊沢 292-1 電話 0868-36-3012 FAX 0868-36-6435 E-mail info@fpcokayama.com
連携施設の所在地	二次医療圏名 (津山・英田) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	医療法人沖縄徳洲会 湘南鎌倉総合病院
所在地	住所 〒247-8533 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話 0467-46-1717 FAX 0467-45-0190 E-mail shounankamakura@gmail.com
連携施設担当者氏名	山上 浩
連携施設担当者 部署・役職	救急総合診療科・部長
事務担当者氏名	鷲塚 英子
連絡担当者連絡先	住所 〒247-8533 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話 0467-46-1717 FAX 0467-45-0190 E-mail kenshu@shonankamakura.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (横須賀三浦) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院
所在地	住所 〒251-0041 神奈川県藤沢市辻堂神台 1-5-1 電話 0466-35-1177 FAX 0466-35-1300 E-mail dr_edu@ctmc.jp
連携施設担当者氏名	瀬戸 雅美
連携施設担当者 部署・役職	総合診療科 部長
事務担当者氏名	氏家 麻里奈
連絡担当者連絡先	住所 〒251-0041 神奈川県藤沢市辻堂神台 1-5-1 電話 0466-35-1177 FAX 0466-35-1300 E-mail dr_edu@ctmc.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (湘南東部) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院
所在地	住所 〒004 - 0041 北海道札幌市厚別区大谷地東 1 丁目 1 - 1 電話 (011) 890 - 1110 FAX (011) 896 - 2202

	E-mail dr-edu-satutoku@tokushukai.jp
連携施設担当者氏名	佐藤 和生
連携施設担当者 部署・役職	整形外科外傷センター・医長
事務担当者氏名	中條 秀樹
連絡担当者連絡先	住所 〒004 - 0041 北海道札幌市厚別区大谷地東1丁目1-1 電話 (011) 890 - 1110 FAX (011) 896 - 2202 E-mail dr-edu-satutoku@tokushukai.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (札幌) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	医療法人徳洲会 札幌東徳洲会病院
所在地	住所 〒065-0033 札幌市東区北33条東14丁目3番1 電話 011-722-1110 FAX011-722-0378 E-mail s.hata@tohtoku.jp
連携施設担当者氏名	畑 俊一
連携施設担当者 部署・役職	総合診療部
事務担当者氏名	松山 智行
連絡担当者連絡先	住所 〒065-0033 札幌市東区北33条東14丁目3番1 電話 011-722-1110 FAX011-722-0378 E-mail ishi_kenshu@higashi-tokushukai.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (札幌) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	せたな町立国保病院
所在地	住所 〒049-4501 北海道久遠郡せたな町北檜山区北檜山378番地 電話 0137-84-5321 FAX 0137-84-4624 E-mail toshimitsu.mori@tokushuksi.jp
連携施設担当者氏名	森 利光
連携施設担当者 部署・役職	整形外科 院長
事務担当者氏名	横川 忍
連絡担当者連絡先	住所 〒049-4501 北海道久遠郡せたな町北檜山区北檜山378番地 電話 0137-84-5321 FAX 0137-84-4624 E-mail shinobu.yokokawa@town.setana.lg.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (北渡島檜山) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	市立美唄病院
所在地	住所 〒072-8555 美唄市西2条北1丁目1番1号 電話 0126-63-4171 FAX 0126-63-4300

	E-mail byouinjimu@city.bibai.lg.jp
連携施設担当者氏名	大澤 匡範
連携施設担当者 部署・役職	事務局 総務係長
事務担当者氏名	大澤 匡範
連絡担当者連絡先	住所 〒072-8555 美唄市西2条北1丁目1番1号 電話 0126-63-4171 FAX 0126-63-4300 E-mail m.oosawa@city.bibai.lg.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（南空知） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	厚沢部町国民健康保険病院
所在地	住所 〒043-1113 北海道檜山郡厚沢部町新町14-1 電話 0139-64-3036 FAX 0139-64-3055 E-mail nsasaki@arion.ocn.ne.jp
連携施設担当者氏名	佐々木 紀仁
連携施設担当者 部署・役職	厚沢部町国民健康保険病院医局 病院長
事務担当者氏名	森 理生
連絡担当者連絡先	住所 〒043-1113 北海道檜山郡厚沢部町新町14-16 電話 0139-64-3036 FAX 0139-64-3055 E-mail mori-mitio@town.assabu.lg.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（南檜山） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	町立別海病院
所在地	住所 〒086-0203 北海道野付郡別海町別海西本町103番地9 電話 0153-75-2311 FAX 0153-75-2974 E-mail byouin@town.betsukai.lg.jp
連携施設担当者氏名	大槻祐二
連携施設担当者 部署・役職	事務局 事務長
事務担当者氏名	西田和弘
連絡担当者連絡先	住所 〒086-0203 北海道野付郡別海町別海西本町103番地9 電話 0153-75-2311 FAX 0153-75-2974 E-mail yuji-o@betsukai.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（根室） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	江別市立病院
所在地	住所 〒067-8585

専門研修プログラムの概要と診療実績

	電話 011-382-5151 FAX 011-384-1321 E-mail hos-kanri@city.ebetsu.lg.jp
連携施設担当者氏名	西園 一郎
連携施設担当者 部署・役職	江別市立病院 総合内科 部長
事務担当者氏名	長澤 留美子
連絡担当者連絡先	住所 〒067-8585 電話 011-382-5151 FAX 011-384-1321 E-mail i.nishizono@bz04.plala.or.jp (西園) hos-kanri@city.ebetsu.lg.jp (長澤)
連携施設の所在地	二次医療圏名 (札幌) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である →□はい ■いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	本輪西ファミリークリニック
所在地	〒050-0065 室蘭市本輪西町3丁目36-9 電話:(0143)55-1212 FAX:(0143)55-3000 E-mail kotaros@hcfm.jp
連携施設担当者氏名	佐藤弘太郎
連携施設担当者 部署・役職	内科・小児科 院長
事務担当者氏名	北海道家庭医療学センター 事務局・主任 遠藤杏奈
連絡担当者連絡先	住所 〒007-0841 札幌市東区北41条東15丁目1-18 電話 011-374-1780 FAX 011-722-9387 E-mail a.endo@hcfm.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (西胆振) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である →□はい ■いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	若草ファミリークリニック
所在地	〒059-0035 北海道登別市若草町4丁目24番1 電話 0143-86-5180 FAX 0143-84-6035 E-mail nori8058@hcfm.jp
連携施設担当者氏名	上野 暢一
連携施設担当者 部署・役職	院長代行
事務担当者氏名	北海道家庭医療学センター 事務局・主任 遠藤杏奈
連絡担当者連絡先	住所 〒007-0841 札幌市東区北41条東15丁目1-18 電話 011-374-1780 FAX 011-722-9387 E-mail a.endo@hcfm.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (西胆振) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である →□はい ■いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	国民健康保険上川医療センター

専門研修プログラムの概要と診療実績

所在地	〒078-1743 北海道上川郡上川町花園町 175 番地 電話 : (01658) 2 - 1231 FAX : (01658) 2-3908 E-mail takashi.ando@hcfm.jp
連携施設担当者氏名	安藤高志
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	北海道家庭医療学センター 事務局・主任 遠藤杏奈
連絡担当者連絡先	住所 〒007-0841 札幌市東区北 41 条東 15 丁目 1-18 電話 011-374-1780 FAX 011-722-9387 E-mail a.endo@hcfm.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (上川中部) 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

※連携施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして列挙すること

総合診療専門研修 I

総合診療専門研修 I の施設一覧

都道府県コード	医療機関コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
北海道 01	15.1242.2	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 被災地	松前町立松前病院	<input checked="" type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携
北海道 01	64.1142.2	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 被災地	北海道立羽幌病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
北海道 01	47.1043.7	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 被災地	足寄町国民健康保険病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
北海道 01	43.1069.1	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 被災地	町立厚岸病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
北海道 01	74.1149.6	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 被災地	幌加内町立幌加内診療所	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
北海道 01	36.1356.6	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 被災地	むかわ町国民健康保険穂別診療所	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
北海道 01	67.1116.9	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 被災地	礼文町国民健康保険船泊診療所	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
千葉県 12	36.1087.0	<input type="checkbox"/> へき地・離島 被災地	亀田ファミリークリニック館山	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
静岡県 22	01.1024.9	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 被災地	西伊豆健育会病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
北海道 01	17.1014.1	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 被災地	せたな町立国保病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
北海道 01	16.1922.6	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 被災地	厚沢部町国民健康保険病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
北海道 01	42.1011.5	<input type="checkbox"/> へき地・離島 被災地	町立別海病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
北海道 01	35.1330.3	<input type="checkbox"/> へき地・離島 被災地	本輪西ファミリークリニック	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
北海道 01	35.1230.5	<input type="checkbox"/> へき地・離島 被災地	若草ファミリークリニック	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
北海道 01	31.1118.1	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 被災地	国民健康保険上川医療センター	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携

総合診療専門研修 I を行う施設ごとの詳細

研修施設名	松前町立松前病院
診療科名	(総合診療科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院

研修中に定期的に行う教育
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 (火、金の入院症例カンファレンス、木の外来症例カンファレンス、水、木のインターネット上の学習会、外来カルテチェック) 他の施設で行う教育・研修機会 (特記すべきことなし)
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数 (7) プログラム名 (函館陵北病院函館総合診療研修プログラム) プログラム名 (札幌徳洲会病院総合診療科専門研修プログラム) プログラム名 (西伊豆健育会病院総合診療専門研修プログラム) プログラム名 (共愛会病院総合診療医プログラム) プログラム名 (湘南藤沢徳洲会病院 病院総合診療医 (GM・ER) 育成プログラム) プログラム名 (江別市立病院総合診療専門研修プログラム) プログラム名 (札幌医科大学総合診療専門研修プログラム)

研修施設名	北海道立羽幌病院		
診療科名	(総合診療科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 (120) 床 診療科病床数 (120) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(6-12) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	佐々尾 航	指導医登録番号	
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
研修の内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件			
後期高齢者診療			
<input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている			
学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ)			
<input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている			
<input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する			
<input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか ()			
<input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 ()			
学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (救急指定病院であり、24 時間救急患者は断らず引き受けている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する			

専門研修プログラムの概要と診療実績

具体的な体制と方略（継続的ケアを要する患者は予約制をとっており、予約外来を週1回以上担当する。）	
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（約19,000人の医療圏から急性期診療の患者が訪れており、入院により治療を行なうことができる他、慢性疾患の外来継続診療も多く診ている。訪問診療を行なっており、高齢の介護度の高い在宅患者に対しても対応可能である。健康増進・予防活動に力を入れ、健診の受け入れや地域での講演活動などにも対応している。がんの緩和ケア研修を受けた医師が複数在籍し、患者への対応や医師への指導も行なっている。）	
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（訪問看護ステーションや地域の保健師、ケアマネージャーなど介護職との連携を密にしている。また、入院患者の退院調整会議を行なっている。）	
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（当院に家族で受診しているケースが多い。また同じ主治医に夫婦・親子で同日に受診していることが多い。）	
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（町の特健診を受託する他、地域住民に対する講演活動を月に1回開催、町の広報誌で健康に関する話題を提供し、住民に予防医療の必要性を説明している。町への医療介護政策へのアドバイスも行ない、予防活動に力を入れている。）	
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（1週間に2~3回、患者あたり月に1~2回の訪問を行なう。）	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
■のべ外来患者数 400名以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
■のべ訪問診療数 20件以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （内科勉強会・薬剤勉強会・病棟カンファレンスを週1回行う。週2回インターネットにおける松前町立松前病院の学習会に参加する。入院患者のカルテは毎日チェックを行う。外来患者については、診察と同時に内科診療医のチェックを受ける。） 他の施設で行う教育・研修機会 （特記すべき研修なし）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数（ 1 ） プログラム名（ るもいジェネラリスト養成プログラム ） プログラム名（ ） プログラム名（ ）	

研修施設名	足寄町国民健康保険病院
診療科名	（総合診療科） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	□診療所 ■病院 施設が病院のとき → 病院病床数（60）床 診療科病床数（60）床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 3 ）カ月
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし 常勤指導医なしの場合 □へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制（ ）
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）

専門研修プログラムの概要と診療実績

常勤指導医氏名 1	村上 英之	指導医登録番号	
常勤指導医氏名 2	柴崎 嘉	指導医登録番号	
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件			
後期高齢者診療			
■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている			
学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ）			
■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている			
□学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する			
□学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する			
具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか（ ）			
□学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない			
経験を補完できない理由（ ）			
学童期以下の患者の診療を経験するための工夫（ ）			
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている			
具体的な体制と方略（ 救急告示病院 ）			
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する			
具体的な体制と方略（ 入院及び外来の両者を行なう ）			
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当			
具体的な体制と方略（ 老人クラブ等での医療講話会を実施（不定期） ）			
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する			
具体的な体制と方略（ 町福祉課職員を院内医療連携室に配置 ）			
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する			
具体的な状況（ 乳幼児から高齢者の家族を包括的に診る ）			
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する			
具体的な内容と方法（ 病院だよりの発行、特定健診、疾病予防のための啓発活動、老人クラブ等での医療講話会を実施（不定期） ）			
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している			
それぞれの概ねの頻度（ 訪問診療は月 1 回の頻度、また、急変時は適時対応している ）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■のべ外来患者数 400 名以上／月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（ ）			
□のべ訪問診療数 20 件以上／月			
■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（ 町内の診療所からの訪問診療の患者の救急対応の紹介を受けている ）			
研修中に定期的に行う教育			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会			
（内科カンファレンス週 1 回、リハビリカンファレンス月 2 回、透析カンファレンス月 1 回、退院支援カンファレンス適時 ）			
他の施設で行う教育・研修機会			
（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 （ 2 ）			
プログラム名（帯広厚生病院総合診療専門医養成プログラム）			
プログラム名（旭川医科大学病院総合診療専門医研修プログラム）			
プログラム名（ ）			

専門研修プログラムの概要と診療実績

研修施設名	町立厚岸病院		
診療科名	(総合診療科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	□診療所 ■病院 施設が病院のとき → 病院病床数 (55) 床 診療科病床数 (55) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(6-12) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし 常勤指導医なしの場合 □へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	佐々木暢彦	指導医登録番号	
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど			
■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事			
■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件			
後期高齢者診療			
■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている			
学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ)			
■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている			
□学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する			
□学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか ()			
□学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 ()			
学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている			
具体的な体制と方略 (救急指定病院である)			
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する			
具体的な体制と方略 (外来診療を週 1 回以上設ける)			
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当			
具体的な体制と方略 (救急車の受け入れ、入院加療を行い、退院してから外来診療まで継続的に治療を行っている。慢性期疾患についても、外来での継続診療を行っている。終末期医療に対しても外来での疼痛コントロールから必要であれば入院での対応も行っている。)			
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する			
具体的な体制と方略 (訪問看護ステーションなどとの連絡会議、役場担当者との連絡会議を行っている。)			
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する			
具体的な状況 (児と同時に受診される親御さん、あるいは祖父母さんが少なくない。)			
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する			
具体的な内容と方法 (医療講演会などの開催)			
□在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している			
それぞれの概ねの頻度 (現在は特定の数人だけに訪問診療を行っているが、いずれ体制を整える予定)			
診療実績 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
■のべ外来患者数 400 名以上/月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()			

のべ訪問診療数 20 件以上／月
 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している
 具体的な体制と方略（訪問リハビリを行い、毎月のリハビリカンファレンスで連携している。）

研修中に定期的に行う教育

当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会
 （月曜、健診の読影会、木曜、入院症例カンファレンス）
 他の施設で行う教育・研修機会
 （プライマリケアカンファレンス・レクチャー）

他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること

本プログラム以外の参加プログラム数（ ）
 プログラム名（ ）
 プログラム名（ ）
 プログラム名（ ）

研修施設名	幌加内町立幌加内診療所		
診療科名	（ 総合診療科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6-12 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名 1	森崎 龍郎	指導医登録番号	
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
研修の内容 ■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか（ ） <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由（ ） 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫（ ）			
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている			

専門研修プログラムの概要と診療実績

具体的な体制と方略（かかりつけの患者に対して必要時 24 時間電話対応を行なっている。）	
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（外来は完全予約制ではないが、同じ医師が主治医として継続的な診療を提供している。）	
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（老若男女問わずすべての町民に急性期・慢性期、緩和ケアなどあらゆる医療を提供している。当院医師が予防接種、乳幼児健診、保育園・小学校～高校までの学校健診、特定健診、町内の事業者健診等の事業を実施している。）	
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（急性期医療・専門医療については、主として旭川市の総合病院と連携し相互に紹介している。当院医師が町保健福祉総合センター長を兼任しており、地域ケア会議など各種会議を通して主体的に連携を調整している。）	
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（日常的に親子、夫婦などが受診しており、診療に際しては家族内の問題など家族情報の収集を意識的にを行い、診療後のふりかえりで外来スタッフと情報共有を行なっている。）	
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（町立病院医師が予防接種、乳幼児健診、保育園・小学校～高校までの学校健診、特定健診、町内の事業者健診、産業医活動を実施しており、常に行政・学校・事業者と連携している。）	
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（訪問診療は約 10 件、月 1～2 回行なっている。在宅患者の急変、緩和ケアについては、条件が あえば在宅看取りも行っている。）	
診療実績（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））	
<input checked="" type="checkbox"/> のべ外来患者数 400 名以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
のべ訪問診療数 20 件以上／月 <input checked="" type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（29 床の地域密着型特別養護老人ホームの嘱託医として、毎週施設を訪問し回診を行なっている。）	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ 毎日の外来症例振り返り、水・木のインターネット・カンファレンスなど ） 他の施設で行う教育・研修機会 （ 近隣の基幹病院・医師会等で行なわれる勉強会への参加 ）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 （ ） プログラム名 （ ） プログラム名 （ ） プログラム名 （ ）	

研修施設名	むかわ町国民健康保険穂別診療所
診療科名	（ 総合診療科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（19）床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6-12 ）カ月
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制（ ）

専門研修プログラムの概要と診療実績

研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	夏目寿彦	指導医登録番号	
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	
要件（各項目の全てを満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか（ ） <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由（ ） 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫（ ）			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（ 休日祝日含め、時間外の急病患者を診療している ）			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（ 外来診療を週一回以上担当する ）			
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（救急車の受け入れから入院治療、退院後外来診療を継続して行っている。地域の保健師や介護施設とも連携している。当院は、介護施設入所者の健康管理も行っている。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（週一回、町の保健師と介護担当者との会議、月に一回地域の介護関係者との会議を行い、情報の共有を行っている ）			
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（人口地域唯一の医療機関であり、外傷から小児まで幅広く診療していることが知られているため、家族 3 世代の受診も少なくない。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（健診活動、地域の小中学校での講話、診療所祭りを通しての健康教育などを行っている ）			
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（ 週一回の訪問診療日を設けている。頻度は病状に応じて対応。病状増悪時は当院で入院治療を行っている。緩和ケアも可能）			
診療実績（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
<input checked="" type="checkbox"/> のべ外来患者数 400 名以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
<input type="checkbox"/> のべ訪問診療数 20 件以上／月 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（グループホームの訪問診療ほか、特老（100 床）、知的障害者施設（100 名）の回診、健康管理を行っている ）			
研修中に定期的に行う教育			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ 水曜、木曜日の朝のインターネット勉強会への参加、適宜カルテチェック ） 他の施設で行う教育・研修機会 （ ）			

他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 ()	()
プログラム名 ()	()
プログラム名 ()	()
プログラム名 ()	()

研修施設名	礼文町国民健康保険船泊診療所		
診療科名	(総合診療科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	升田 鉄三	指導医登録番号	
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
研修の内容 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (離島の唯一の町営の診療所であり、24 時間体制で診療に当たっている)			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 (診療日は午前・午後外来を担当。午後は入院患者の回診を行う。訪問診療も行う)			
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 (救急車の受け入れ、入院加療を行い、退院してから外来診療まで継続的に治療を行っている。慢性疾患についても、外来での継続診療を行っている。終末期医療に対しても外来での疼痛コントロールから必要であれば入院の対応も行っている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 (毎月一回、社協、特養、保健師が集まり、診療所で患者を通じての担当者会議を開く。特養には 2 週間毎に出向き入所者の診察を行う。)			

専門研修プログラムの概要と診療実績

<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（人口2700人の離島であり、初診は当診療所を利用する人が多い。スタッフも地元出身者が多く、患者さんの家族背景もわかりやすい。）</p>
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（平成4年から毎年10月、5日間、午前の一般診療を中止、集中して特定健診・がん検診を含む住民健診を行っている。その結果をもとに保健師と協力しながら住民の健康管理に当たっている。）</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（毎週木曜日午後、訪問診療を行っている。在宅療養中の患者さんを一人当たり月一回訪問診療。緩和ケアにも対応している。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■のべ外来患者数 400名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■のべ訪問診療数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （毎月1回、製薬会社主催の医療学習会を開く。毎週水・木曜日の朝、インターネット上の学習会に参加。毎月1回研修医の研修報告会を開く。外来・入院患者さんのカルテチェックは研修医と一緒に診療・回診しながら随時行う。） 他の施設で行う教育・研修機会 （特記すべきことなし）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数（ 2 ） プログラム名（日本最北端総合診療養成プログラム） プログラム名（道北勤医協総合診療専門研修プログラム） プログラム名（ ）</p>

研修施設名	亀田ファミリークリニック館山		
診療科名	（ 家庭医診療科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	■診療所 □病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし 常勤指導医なしの場合 □へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名1	岡田 唯男	指導医登録番号	
常勤指導医氏名2	菅長 麗依	指導医登録番号	
常勤指導医氏名3	吉澤 瑛子	指導医登録番号	
常勤指導医氏名4	岩間 秀幸	指導医登録番号	
常勤指導医氏名5	張 耀明	指導医登録番号	
常勤指導医氏名6	上松 東宏	指導医登録番号	
要件（各項目の全てを満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			

研修の内容	
<p>■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど</p> <p>■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事</p> <p>■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>	
施設要件	
<p>後期高齢者診療</p> <p>■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている</p> <p>学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ）</p> <p>■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている</p> <p><input type="checkbox"/>学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する</p> <p><input type="checkbox"/>学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する</p> <p>具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか（ ）</p> <p><input type="checkbox"/>学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない</p> <p>経験を補完できない理由（ ）</p> <p>学童期以下の患者の診療を経験するための工夫（ ）</p>	
<p>■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている</p> <p>具体的な体制と方略（代表番号から 24 時間医師に電話相談可能で、訪問診療も 24 時間対応している。時間外対応加算及び、地域包括診療料、強化型在宅支援診療所の要件を満たし、算定を行っている）</p>	
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する</p> <p>具体的な体制と方略（全研修期間において継続性を重視し、連携施設研修期間も one day back で外来を継続する）</p>	
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当</p> <p>具体的な体制と方略（外来で幅広い疾患の急性期・慢性期に対応し、ヘルスマネジメント、ACP 等も日常的に行う）</p>	
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する</p> <p>具体的な体制と方略（1 日 2 回訪問看護 ST、MSW とカンファレンスを持ち、他法人ともカンファレンスを共催する）</p>	
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する</p> <p>具体的な状況（家庭医として、2 世代、3 世代の家族全員を主治医として診療する）</p>	
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する</p> <p>具体的な内容と方法（住民向け健康教室を複数計画実施し、学校医、医療的ケア指導医として介入も経験する）</p>	
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している</p> <p>それぞれの概ねの頻度（週 5 日定期往診を行い、土日夜間も含め 24 時間臨時対応する。年間看取り数 約 70 件）</p>	
<p>診療実績（各項目を満たすとき、<input type="checkbox"/>を塗りつぶす（<input checked="" type="checkbox"/>のように））</p>	
<p>■のべ外来患者数 400 名以上／月</p> <p><input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している</p> <p>具体的な体制と方略（ ）</p>	
<p>■のべ訪問診療数 20 件以上／月</p> <p><input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している</p> <p>具体的な体制と方略（ ）</p>	
<p>研修中に定期的に行う教育</p> <p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （外来プリセプティング・昼レクチャー（毎日）・在宅カンファレンス（朝夕）・ポートフォリオ勉強会（週 1）など）</p> <p>他の施設で行う教育・研修機会 （日本プライマリ・ケア学会総会・夏期・冬期セミナーへの参加・講師、亀田総合病院勉強会への参加など）</p>	
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること</p>	
<p>本プログラム以外の参加プログラム数（ 7 ）</p> <p>プログラム名（亀田ファミリークリニック館山（KFCT）総合診療専門医研修プログラム）</p> <p>プログラム名（秋田大学アカデミック家庭医療・総合診療医育成プログラム（FMGIM-AU））</p> <p>プログラム名（日本医科大学総合診療専門医研修プログラム）</p> <p>プログラム名（東海大学医学部付属病院 総合診療専門研修プログラム）</p> <p>プログラム名（千葉大学医学部付属病院 総合診療専門研修プログラム）</p> <p>プログラム名（さんむ医療センター総合診療専門医研修プログラム）</p> <p>プログラム名（山梨県立中央病院 総合診療専門医研修プログラム）</p>	

研修施設名	西伊豆健育会病院
診療科名	（ 内科・整形外科 ）

具体的な体制と方略（	）
<p>■のべ訪問診療数 20 件以上／月</p> <p>□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している</p>	
具体的な体制と方略（	）
<p>研修中に定期的に行う教育</p> <p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ 病診カンファレンス、プライマリ・ケアレクチャーシリーズ、医局勉強会）</p> <p>他の施設で行う教育・研修機会 （</p>	
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>	
<p>本プログラム以外の参加プログラム数（ 7 ）</p> <p>プログラム名（ 西伊豆健育会病院総合診療専門研修プログラム ）</p> <p>プログラム名（ ふじのくに家庭医後期研修プログラム ）</p> <p>プログラム名（ 静岡伊豆半島総合診療後期研修プログラム ）</p> <p>プログラム名（ 名古屋医療センター総合診療専門研修プログラム ）</p> <p>プログラム名（ 藤田保健衛生大学総合診療専門医プログラム ）</p> <p>プログラム名（ 東京医療センター総合診療専門医育成プログラム ）</p> <p>プログラム名（ 武蔵村山病院総合診療医養成プログラム ）</p>	

研修施設名	せたな町立国保病院		
診療科名	（総合診療科） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数（97）床 診療科病床数（97）床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制（		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （		
常勤指導医氏名 1	森 利光	指導医登録番号	
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<p>研修の内容</p> <p>■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど</p> <p>■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事</p> <p>■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>			
<p>施設要件</p> <p>後期高齢者診療</p> <p>■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている</p> <p>学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ）</p> <p>■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている</p> <p>□学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する</p> <p>□学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか（</p> <p>□学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない</p>			

専門研修プログラムの概要と診療実績

経験を補完できない理由（ 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫（))
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（救急指定病院である）	
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（外来診療を週 1 回以上設ける）	
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（救急車の受け入れ、入院加療、退院してから外来診療に継続的に治療を行っている。）	
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（地域・役場・ケアマネ等と勉強会を通じてお互いに連携を取っている。）	
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（家族間で受診している。）	
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（健診だけでなく、健康相談を行っている。）	
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（病院としては週に 2 回、患者一人当たり月 1 回訪問診療を行っている。）	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
■のべ外来患者数 400 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（)
■のべ訪問診療数 20 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（)
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （火曜日入院症例カンファレンス・毎週木曜日訪問診療・水、木インターネット学習会） 他の施設で行う教育・研修機会 （特記すべきことなし）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数（ 3 ） プログラム名（函館共愛会病院総合診療専門研修プログラム） プログラム名（札幌徳洲会病院総合診療科専門研修プログラム） プログラム名（札幌医科大学総合診療専門研修プログラム）	

研修施設名	厚沢部町国民健康保険病院		
診療科名	（ 総合診療科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	□診療所 ■病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ 69 ）床 診療科病床数（ 69 ）床		
総合診療専門研修 I における研修期間	（ 6 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし 常勤指導医なしの場合 □へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制（		
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （		
常勤指導医氏名 1	佐々木 紀仁	指導医登録番号	

専門研修プログラムの概要と診療実績

常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
<p>■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど</p> <p>■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事</p> <p>■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>			
施設要件			
後期高齢者診療			
■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている			
学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ）			
■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている			
□学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する			
□学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する			
具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか（)			
□学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない			
経験を補完できない理由（)			
学童期以下の患者の診療を経験するための工夫（)			
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている			
具体的な体制と方略（ 救急指定病院である。）			
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する			
具体的な体制と方略（ 外来診療を週一回以上設ける。)			
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当			
具体的な体制と方略（救急車の受け入れ、入院加療を行い、退院してから外来診療まで継続的に治療を行っている。慢性期疾患についても、外来での継続診療を行っている。終末期医療に対しても疼痛コントロールから必要であれば入院での対応も行っている。)			
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する			
具体的な体制と方略（患者を通じての担当者会議だけでなく、地域での勉強会を通じてお互いに連携を取っている。地域のケア会議を主催している。)			
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する			
具体的な状況（ 医療圏、4000 人のため、夫婦や親子での受診がある。）			
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する			
具体的な内容と方法（健診だけでなく、住民を対象とした医療勉強会を開催している。）			
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している			
それぞれの概ねの頻度（ 病院としては週に 1~2 回の訪問診療を行っている。緩和ケアにも対応している。）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■のべ外来患者数 250 名以上／月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（)			
■のべ訪問診療数 80 件以上／月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（)			
研修中に定期的に行う教育			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会			
（ 月 1 回の勉強会を開催している。)			
他の施設で行う教育・研修機会			
（)			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（)			
プログラム名（)			
プログラム名（)			
プログラム名（)			

研修施設名	町立別海病院		
診療科名	(総合診療科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	□診療所 ■病院 施設が病院のとき → 病院病床数 (84) 床 診療科病床数 (84) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(6-12) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし 常勤指導医なしの場合 □へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	西村 進	指導医登録番号	
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど			
■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事			
■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件			
後期高齢者診療			
■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている			
学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ)			
■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている			
□学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する			
□学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか ()			
□学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 ()			
学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (救急指定病院である)			
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 (外来診療を週 1 回以上設ける)			
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 (救急車の受入れ、入院加療を行い、退院してからも外来診療等継続的に治療を行っている。慢性期疾患についても、外来での継続診療を行っている。終末期医療に関しても外来での疼痛コントロールから必要であれば入院の対応も行っている。)			
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 (隣接して、特別養護老人ホーム、老人保健施設があり、訪問看護、保健担当とも密接に連携している。地域における勉強会も実施している。また、当町には民間主体による医療サポート隊「医良同友」という組織もあり、住民と密接に関わっている。)			
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況 (町内唯一の病院であることから、家族全体での受診がある。)			
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法 (健診だけでなく、住民を対象とした勉強会、研修会を実施している。)			
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度 (病院としては週に二回、患者 1 人あたりでは月 1 回の訪問診療を行っており、緩和ケアにも対応している。)			
診療実績 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			

<p>■のべ外来患者数 400名以上／月 <input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■のべ訪問診療数 20件以上／月 <input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （定期的な入院・外来症例カンファレンスと勉強会 ） 他の施設で行う教育・研修機会 （ 特になし ）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数（ ） プログラム名（ ） プログラム名（ ） プログラム名（ ）</p>

研修施設名	本輪西ファミリークリニック		
診療科名	（総合診療科） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名 1	佐藤 弘太郎	指導医登録番号	
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
<p>研修の内容</p> <p>■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>			
<p>施設要件</p> <p>後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/>研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている</p> <p>学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） <input checked="" type="checkbox"/>研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input type="checkbox"/>学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/>学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか（ ） <input type="checkbox"/>学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由（ ）</p>			

専門研修プログラムの概要と診療実績

学童期以下の患者の診療を経験するための工夫（ ）	
<p>■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（外来・訪問患者の病状が変化した場合は電話相談を 24 時間受付。外来患者は必要に応じて近隣の連携病院での救急外来受診で対応し、訪問患者は宅直医による緊急往診を行う。専攻医も外来・訪問患者双方の 24 時間対応を行う）</p>	
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（外来患者は緩やかな主治医制、訪問患者はチーム制で診療を行う。各専攻医の学習テーマに合致した患者を継続して診療を行う）</p>	
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（救急患者や生活習慣病患者の診察、検診や予防接種、訪問診療での緩和ケアの実践により、全ての年齢層に対する医療提供実践を行う）</p>	
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（周囲の医療機関との紹介/逆紹介、また訪問看護ステーション・介護保険事業所との電話や定例会議などにおける密な連携を行っている。専攻医も個別事例のコンサルテーションや会議参加を行う）</p>	
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（小児思春期の患者さんとその親の世代、高齢者とその子の世代が受診する。家族構成員は電子カルテ内で家族図でそれを確認することができ、専攻医は特に同一家族構成員が受診した際には積極的に診療を経験する）</p>	
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（町内会での健康講話・保健師との協働による地域へのアプローチ等を通して地域指向型ケアを実施する）</p>	
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（在宅支援診療所として、ケアマネージャー・訪問看護師と連携し急変や看取りにも 24 時間対応している。専攻医も積極的に対応にあたる）</p>	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
<p>■のべ外来患者数 400 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>	
<p>■のべ訪問診療数 20 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （カルテチェック・外来/訪問患者カンファレンス・定期振り返り・家庭医学学レクチャー） 他の施設で行う教育・研修機会 （特記すべきことなし）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数（ 5 ） プログラム名（白河総合診療アカデミー 総合診療専門医養成 プログラム（仮称） ） プログラム名（獨協医科大学病院総合診療専門医養成プログラム ） プログラム名（北海道家庭医療学センター 総合診療専門医コース ） プログラム名（国立病院機構旭川医療センター総合診療研修プログラム ） プログラム名（市立旭川病院総合診療専門研修プログラム ）	

研修施設名	若草ファミリークリニック
診療科名	（総合診療科） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	■診療所 □病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし 常勤指導医なしの場合 □ へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制（ ）

専門研修プログラムの概要と診療実績

研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	上野 暢一	指導医登録番号	
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
研修の内容 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか（ ） <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由（ ） 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫（ ）			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（外来・訪問患者の病状が変化した場合は電話相談を 24 時間受付。外来患者は必要に応じて近隣の連携病院での救急外来受診で対応し、訪問患者は宅直医による緊急往診を行う。専攻医も外来・訪問患者双方の 24 時間対応を行う）			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（外来患者は緩やかな主治医制、訪問患者はチーム制で診療を行う。各専攻医の学習テーマに合致した患者を継続して診療を行う）			
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（救急患者や生活習慣病患者の診察、検診や予防接種、訪問診療での緩和ケアの実践により、全ての年齢層に対する医療提供実践を行う）			
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（周囲の医療機関との紹介/逆紹介、また訪問看護ステーション・介護保険事業所との電話や定例会議などにおける密な連携を行っている。専攻医も個別事例のコンサルテーションや会議参加を行う）			
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（小児思春期の患者さんとその親の世代、高齢者とその子の世代が受診する。家族構成員は電子カルテ内で家族図でそれを確認することができ、専攻医は特に同一家族構成員が受診した際には積極的に診療を経験する）			
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（町内会での健康講話・保健師との協働による地域へのアプローチ等を通して地域指向型ケアを実施する）			
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（在宅支援診療所として、ケアマネージャー・訪問看護師と連携し急変や看取りにも 24 時間対応している。専攻医も積極的に対応にあたる）			
診療実績（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
<input checked="" type="checkbox"/> のべ外来患者数 400 名以上/月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
のべ訪問診療数 20 件以上/月 <input checked="" type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（現在は件数が少ないが、今後近隣地域への周知により件数確保に努める予定である。件数を満たさない場合は、週に半日、近隣の本輪西ファミリークリニック（在宅支援診療所。訪問件数 320 件/月）にて経験の補充を行う）			
研修中に定期的に行う教育			

専門研修プログラムの概要と診療実績

当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 (カルテチェック・外来/訪問患者カンファレンス・定期振り返り・家庭医療学レクチャー) 他の施設で行う教育・研修機会 (特記すべきことなし)
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数 (5) プログラム名 (白河総合診療アカデミー 総合診療専門医養成 プログラム(仮称)) プログラム名 (獨協医科大学病院総合診療専門医養成プログラム) プログラム名 (北海道家庭医療学センター 総合診療専門医コース) プログラム名 (国立病院機構旭川医療センター総合診療研修プログラム) プログラム名 (市立旭川病院総合診療専門研修プログラム)

研修施設名	国民健康保険 上川医療センター		
診療科名	(総合診療科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	安藤 高志	指導医登録番号	
常勤指導医氏名 2	平野 嘉信	指導医登録番号	
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
研修の内容 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (外来・訪問患者の病状が変化した場合は電話相談を 24 時間受付。外来患者は必要に応じて近隣の連携病院での救急外来受診で対応し、訪問患者は宅直医による緊急往診を行う。専攻医も外来・訪問患者双方の 24 時間対応を行う)			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 (外来患者は緩やかな主治医制、訪問患者はチーム制で診療を行う。各専攻医の学習テーマに合致し			

た患者を継続して診療を行う)	
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（救急患者や生活習慣病患者の診察、検診や予防接種、訪問診療での緩和ケアの実践により、全ての年齢層に対する医療提供実践を行う）</p>	
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（周囲の医療機関との紹介/逆紹介、また訪問看護ステーション・介護保険事業所との電話や定例会議などにおける密な連携を行っている。専攻医も個別事例のコンサルテーションや会議参加を行う）</p>	
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（小児思春期の患者さんとその親の世代、高齢者とその子の世代が受診する。家族構成員は電子カルテ内で家族図でそれを確認することができ、専攻医は特に同一家族構成員が受診した際には積極的に診療を経験する）</p>	
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（町内会での健康講話・保健師との協働による地域へのアプローチ等を通して地域指向型ケアを実施する）</p>	
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（在宅支援診療所として、ケアマネージャー・訪問看護師と連携し急変や看取りにも24時間対応している。専攻医も積極的に対応にあたる）</p>	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
<p>■のべ外来患者数 400名以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（)</p>	
<p>のべ訪問診療数 20件以上/月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（現在、10-15件/月である（別に、町内の特養へは50件/月の訪問を行っている）。今後診療体制変更により訪問診療数増加を見込んでいる。また、件数を満たさない場合は、週に半日、近隣の北星ファミリークリニック（在宅支援診療所。訪問件数430件/月）にて経験の補充を行う）</p>	
研修中に定期的に行う教育	
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （カルテチェック・外来/訪問患者カンファレンス・定期振り返り・家庭医学学レクチャー） 他の施設で行う教育・研修機会 （特記すべきことなし）</p>	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
<p>本プログラム以外の参加プログラム数（ 5 ） プログラム名（白河総合診療アカデミー 総合診療専門医養成プログラム（仮称）) プログラム名（獨協医科大学病院総合診療専門医養成プログラム) プログラム名（北海道家庭医療学センター 総合診療専門医コース) プログラム名（国立病院機構旭川医療センター総合診療研修プログラム) プログラム名（市立旭川病院総合診療専門研修プログラム)</p>	

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

総合診療専門研修Ⅱ

総合診療専門研修Ⅱの施設一覧

都道府県コード	医療機関コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
北海道 01	71.1046.0	■へき地・離島 被災地	砂川市立病院	□基幹 ■連携
北海道 01	61.1004.0	■へき地・離島 被災地	市立美唄病院	□基幹 ■連携

総合診療専門研修Ⅱを行う施設ごとの詳細

研修施設名	砂川市立病院
診療科名	(総合内科)

専門研修プログラムの概要と診療実績

	※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 (498) 床 診療科病床数 (20) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(6) カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	日下 大隆	指導医登録番号	
常勤指導医氏名 2	小熊 豊	指導医登録番号	
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
研修の内容			
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 ■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件			
■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ■救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
■高齢者(特に虚弱)ケア 具体的な体制と方略(褥瘡・栄養の回診、評価を行っている)			
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略(包括的に医療介入し、入院時に予防教育もやっている)			
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略(必要時には整形外科、耳鼻咽喉科、眼科などの院内常勤の専門医にコンサルテーション、手術を行っている)			
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略(不安神経症、生活保護者など生活自立困難な患者に対しては、社会福祉士、精神保健福祉士などとともに地域の医療を駆使して、可能な医療的サポートを行っている)			
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略(緩和ケア病床や疼痛コントロールを中心に、臨床心理士などとともにサポートを行っている)			
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略(入退院支援センターを設置するとともに、多職種でのカンファレンスを行い、患者、家族、医療者皆で退院後の支援、方針決定している)			
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制(在宅患者の主治医だけではなく、他の医師や看護師、コメディカルなどを含めて対応している)			
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること			
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略(日中は常勤の救急科や総合内科専門医、夜間・休日は輪番制で救急外来患者の診療を行っている)			
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略(総合診療科、救急科等及び休日・夜間は当番医が幅広く初診患者に対応している)			
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略(発熱、腹痛、腰痛、膝痛など頻出する症候や上気道炎、感染性腸炎、虫垂炎、尿管結石、変形性膝関節症などそれぞれに適した治療を行っている)			
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略(症例カンファレンスを通じて、プロブレムの抽出から診断への推論を学び、UpToDate や Dynamed などの二次文献を利用して EBM に基づいた医療を行う)			
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略(包括ケア病床の利用や特別に分類しない外来での地域包括的ケアを行い、それぞれの健康問題に対応している)			
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略(考え得る鑑別診断を行っても診断困難な場合、大学病院、高度専門病院等に紹介し医療連携を行っている)			

専門研修プログラムの概要と診療実績

診療実績（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該診療科における入院患者総数 20件以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （毎日の入院患者カンファレンス、毎週火・金曜日の症例検討会、水曜日のがんボード、木曜日の抄読会、指導医や診療情報管理士によるカルテチェック） 他の施設で行う教育・研修機会 （他施設で行う水、木曜日のインターネットでの学習会）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数（ 3 ） プログラム名（札幌医科大学総合診療専門研修プログラム） プログラム名（北海道家庭医療学センター 家庭医療学専門医コース） プログラム名（北海道立札幌病院総合診療医養成プログラム）	

研修施設名	市立美唄病院		
診療科名	（ 総合診療科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数（ 98 ）床 診療科病床数（ 98 ）床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 6 ）カ月		
常勤指導医の有無	なし ■あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	■なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名1	白松 文彦	指導医登録番号	
常勤指導医氏名2		指導医登録番号	
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	

要件（各項目の全てを満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））	
研修の内容	
<input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを体験する。 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く体験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを体験する	
施設要件	
<input checked="" type="checkbox"/> 一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する <input checked="" type="checkbox"/> 救急医療を提供している	
病棟診療 ：以下の全てを行っていること	
<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（ 褥瘡評価、栄養評価を行っている ）	
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（ 包括的な医療介入を行っている ）	

専門研修プログラムの概要と診療実績

<p>■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（ 必要時には当院外科、整形外科、小児科医師、さらには産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科の出張医にコンサルテーションを行っているほか、精神科については他院医師が往診するなどの連携をとっている ）</p>
<p>■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（不安神経症、生活保護者など生活自立困難な患者に対しては、ケースワーカーとともに地域の医療を駆使して、可能な医療的サポートを行っている）</p>
<p>■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（疼痛コントロールを中心に、患者家族も含めたサポートを行っている）</p>
<p>■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（担当者会議を行い、患者、患者家族、医療者皆で退院後の支援、方針決定を行っている）</p>
<p>■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（在宅患者の主治医だけでなく、他の医師も含めて対応している）</p>
<p>外来診療：以下の診療全てを行っていること</p>
<p>■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（毎日救急担当医を置き、医師全員で初診、救急外来患者の診療にあたっている）</p>
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（当院には出張医による専門外来も一部あるが、受付時に振り分けることを想定しておらず、初診患者については臓器別でなく、幅広く受け入れる）</p>
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（発熱、腹痛、腰痛、膝痛など頻出する症候や、上気道炎、感染性腸炎、虫垂炎、尿管結石、変形性膝関節症などそれぞれに適した治療を行っている）</p>
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（医局勉強会や院内研修会を通じて、EBMに基づいた医療を行う）</p>
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（外来において包括的ケアを行い、必要に応じて他科との連携を行う）</p>
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（ 考え得る鑑別診断を行っても診断困難な場合、近隣の中核病院である岩見沢市立総合病院や砂川市立病院に紹介し医療連携を行っている ）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■当該診療科における入院患者総数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ 外来症例カンファレンス、入院症例カンファレンスをそれぞれ週1回行う ） 他の施設で行う教育・研修機会 （ 3ヶ月ごとに他院で開催される感染防止対策合同カンファレンスに参加することが可能 ）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 （ ） プログラム名 （ ） プログラム名 （ ） プログラム名 （ ）</p>

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

領域別研修： 内科			
研修施設名	市立函館病院	都道府県コード01	医療機関コード14.1675.6
領域別研修（内科）における研修期間	（ 6 ）カ月		
指導医氏名	松村 尚哉		
有する認定医・専門医資格	日本内科学会指導医，日本循環器学会専門医，CVIT 名誉専門医		

専門研修プログラムの概要と診療実績

※内科に関するもの
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））
研修の内容 ■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する
施設要件 ■内科専門研修プログラムに参加している □基幹施設 ■連携施設 □特別連携施設 ■内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））
■当該診療科における入院患者総数 40 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数（ 2 ） プログラム名（ 勤医協中央病院総合診療専門研修プログラム ） プログラム名（ 道南勤医協稜北病院総合診療専門研修プログラム ） プログラム名（ ）

領域別研修： 内科			
研修施設名	砂川市立病院	都道府県コード 01	医療機関コード 71.1046.0
領域別研修（内科）における研修期間	（ 6-12 ）カ月		
指導医氏名	渡部 直己		
有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの	内科学会総合内科専門医・呼吸器内視鏡学会専門医		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			
施設要件 ■内科専門研修プログラムに参加している □基幹施設 ■連携施設 □特別連携施設 ■内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科における入院患者総数 40 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ 4 ） プログラム名（旭川医科大学病院総合診療専門研修プログラム） プログラム名（札幌医科大学総合診療専門研修プログラム） プログラム名（北海道家庭医療学センター 家庭医療学専門医コース） プログラム名（北海道立羽幌病院総合診療医養成プログラム）			

領域別研修： 内科			
研修施設名	江別市立病院	都道府県コード 01	医療機関コード 10.1027.8
領域別研修（内科）における研修期間	（ 6-12 ）カ月		
指導医氏名	阿部 昌彦		
有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの	日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会循環器専門医		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			

研修の内容
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する
施設要件
■内科専門研修プログラムに参加している ■基幹施設 □連携施設 □特別連携施設 ■内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））
■当該診療科における入院患者総数 40 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数（ 4 ） プログラム名（北海道家庭医療学センター総合診療専門医コース ） プログラム名（手稲家庭医療クリニック総合診療専門研修プログラム ） プログラム名（札幌徳洲会病院総合診療科専門研修プログラム ） プログラム名（長崎大学病院ながさき総合診療専門医研修プログラム ）

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

領域別研修： 小児科			
研修施設名	市立函館病院	都道府県コード 01	医療機関コード 14.1675.6
領域別研修（小児科）における研修期間	（ 3 ）カ月		
指導医氏名	依田 弥奈子	有する専門医資格（認定小児科指導医，日本小児科学会専門医） ※小児科に関するもの	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ			
施設要件			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■小児科常勤医がいる。（ 6 ）名			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ外来患者数 400 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ 2 ） プログラム名（ 勤医協中央病院総合診療専門研修プログラム ） プログラム名（ 道南勤医協稜北病院総合診療専門研修プログラム ） プログラム名（ ）			

領域別研修： 小児科			
研修施設名	町立厚岸病院	都道府県コード 01	医療機関コード 43.1069.1
領域別研修（小児科）における研修期間	（ 3 ）カ月		
指導医氏名	佐々木暢彦	有する専門医資格（小児科専門医） ※小児科に関するもの	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			

研修の内容			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ			
施設要件			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■小児科常勤医がいる。（ 1 ）名			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ外来患者数 400名以上／月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			

領域別研修： 小児科			
研修施設名	広域紋別病院	都道府県コード 01	医療機関コード 51.1093.4
領域別研修（小児科）における研修期間		（ 3 ）カ月	
指導医氏名	須貝 理香	有する専門医資格（ 小児科専門医 ）	
※小児科に関するもの			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ			
施設要件			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■小児科常勤医がいる。（ 3 ）名			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ外来患者数 400名以上／月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

領域別研修： 救急科			
研修施設名	市立函館病院	都道府県コード 01	医療機関コード 14.1675.6
指導医氏名	武山 佳洋	有する専門医資格（救急科専門医・指導医）	
専従する部署（救急科）			
□研修期間（ 3 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する			

施設要件 （下記のいずれかを満たす）	
<input checked="" type="checkbox"/> 救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設 <input checked="" type="checkbox"/> 救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000件以上／年 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数（ 2 ）	
プログラム名（ 勤医協中央病院総合診療専門研修プログラム ）	
プログラム名（ 道南勤医協稜北病院総合診療専門研修プログラム ）	
プログラム名（ ）	

領域別研修： 救急科			
研修施設名	共愛会病院	都道府県コード 01	医療機関コード 14.1141.9
指導医氏名	金子 登	有する専門医資格 （日本救急医学会専門医）	専従する部署（内科）
□研修期間（ 3 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
<input type="checkbox"/> 救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設 <input checked="" type="checkbox"/> 救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<input checked="" type="checkbox"/> 当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000件以上／年 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			

領域別研修： 救急科			
研修施設名	砂川市立病院	都道府県コード 01	医療機関コード 71.1046.0
指導医氏名	下嶋 秀和	有する専門医資格（日本救急医学会専門医）	専従する部署（救急科）
研修期間（ 3 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
<input checked="" type="checkbox"/> 救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設 <input type="checkbox"/> 救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<input checked="" type="checkbox"/> 当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000件以上／年 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			

具体的な体制と方略 ()
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数 (5)
プログラム名 (留萌総合診療医養成プログラム)
プログラム名 (旭川医科大学病院総合診療専門研修プログラム)
プログラム名 (札幌医科大学総合診療専門研修プログラム)
プログラム名 (北海道家庭医療学センター 家庭医療学専門医コース)
プログラム名 (北海道立羽幌病院総合診療医養成プログラム)

領域別研修： 救急科			
研修施設名	湘南鎌倉総合病院	都道府県コード 14	医療機関コード 21.0466.9
指導医氏名	山上 浩	有する専門医資格 (日本救急医学会救急科専門医)	専従する部署 (救急総合診療科)
研修期間 (3-12) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
□救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関 (救急搬送件数が年に 1000 件以上)			
診療実績 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000 件以上/年			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略 ()			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 (3)			
プログラム名 (湘南藤沢徳洲会病院 総合診療医育成プログラム (医))			
プログラム名 (宇和島徳洲会病院 総合診療プログラム)			
プログラム名 (榛原総合病院総合診療専門研修プログラム)			

領域別研修： 救急科			
研修施設名	湘南藤沢徳洲会病院	都道府県コード 14	医療機関コード 22.0853.6
指導医氏名	内田 祐司	有する専門医資格 (救急科専門医、小児科専門医)	専従する部署 (救急科)
□研修期間 (3) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科、軽症から重症まで救急疾患の診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
□救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関 (救急搬送件数が年に 1000 件以上)			
診療実績 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000 件以上/年			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略 ()			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 (1)			
プログラム名 (湘南藤沢徳洲会病院 総合診療医育成プログラム)			
プログラム名 ()			
プログラム名 ()			

領域別研修： 救急科			
研修施設名	医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院	都道府県コード 01	医療機関コード 05,1400,7
指導医氏名	加藤 久晶	有する専門医資格 (日本救急医学会救急科専門医) (日本救急医学会救急科指導医) (日本熱傷学会熱傷専門医) (日本外傷学会外傷専門医)	専従する部署 (救急科)
研修期間 (3) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容 ■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす) ■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設 □救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関 (救急搬送件数が年に1000件以上)			
診療実績 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000件以上/年 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 (5)			
プログラム名 (札幌徳洲会病院 総合診療科専門研修プログラム)			
プログラム名 (東苗穂病院)			
プログラム名 (北海道家庭医療学センター)			
プログラム名 (共愛会病院)			
プログラム名 (静仁会静内病院)			

領域別研修：救急科			
研修施設名	医療法人徳洲会 札幌東徳洲会病院	都道府県コード 01	医療機関コード 02.1387.3
指導医氏名	松田 知倫	有する専門医資格 (救急科専門医)	専従する部署 (救急科)
□研修期間 (3) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容 ■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす) ■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設 □救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関 (救急搬送件数が年に1000件以上)			
診療実績 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000件以上/年 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 (2)			
プログラム名 (徳之島徳洲会病院総合診療専門医研修プログラム)			
プログラム名 (江別市立病院総合診療専門研修プログラム)			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

その他の領域別診療科

領域別研修： 外科			
研修施設名	共愛会病院	都道府県コード 01	医療機関コード 14.1141.9
指導医氏名	立石 晋	有する専門医資格 (日本外科学会専門医)	専従する部署 (外科)
□研修期間 (3) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (外科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (外) 科常勤医がいる。 (3) 名			

領域別研修： 外科			
研修施設名	社会福祉法人北海道社会事業協会函館病院	都道府県コード 01	医療機関コード 14.1765.5
指導医氏名	向谷 充宏	有する専門医資格 (日本外科学会専門医) (日本消化器外科学会専門医)	専従する部署 (診療部)
□研修期間 (3) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (外科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (外) 科常勤医がいる。 (4) 名			

領域別研修： 外科			
研修施設名	広域紋別病院	都道府県コード 01	医療機関コード 51.1093.4
指導医氏名	曾ヶ端 克哉	有する専門医資格 (外科専門医)	専従する部署 (外科)
□研修期間 (3) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (外科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (外) 科常勤医がいる。 (3) 名			

領域別研修： 整形外科			
研修施設名	市立函館病院	都道府県コード 01	医療機関コード 14.1675.6

専門研修プログラムの概要と診療実績

指導医氏名	佐藤 隆弘	有する専門医資格（日本整形外科学会 専門医，日本脊椎脊髄病学会指導医）	専従する部署（整形外科）
□研修期間（ 3 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■ 整形外科領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■ 整形外科常勤医がいる。（ 5 ）名			

領域別研修： 整形外科			
研修施設名	函館中央病院	都道府県コード 01	医療機関コード 14.1004.9
指導医氏名	金山 雅弘	有する専門医資格（日本整形外科学会）	専従する部署（整形外科）
■研修期間（ 1 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（整形外科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（整形外）科常勤医がいる。（11）名			

領域別研修： 整形外科			
研修施設名	函館五稜郭病院	都道府県コード 01	医療機関コード 14.1003.1
指導医氏名	小塚 豊	有する専門医資格（整形外科専門医）	専従する部署（整形外科）
□研修期間（ 3-6 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（整形外科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（整形外）科常勤医がいる。（7）名			

領域別研修： 脳神経外科			
研修施設名	函館脳神経外科	都道府県コード 01	医療機関コード 14.1500.6
指導医氏名	山崎 貴明	有する専門医資格（脳卒中専門医）	専従する部署（脳卒中センター）
□研修期間（ 3 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（脳卒中）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（脳神経外科）科常勤医がいる。（10）名			

領域別研修：産婦人科			
研修施設名	共愛会病院	都道府県コード 01	医療機関コード 14.1141.9
指導医氏名	佐藤 賢一郎	有する専門医資格 (日本産婦人科学会専門医)	専従する部署(産婦人科)
□研修期間 (3) カ月			
要件(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■(産婦人科)領域における基本能力(診断学、治療学、手技等)が修得できる			
■(産婦人科)科常勤医がいる。(2)名			

領域別研修：泌尿器科			
研修施設名	函館五稜郭病院	都道府県コード 01	医療機関コード 14.1003.1
指導医氏名	高橋 敦	有する専門医資格(泌尿器科専門医)	専従する部署(泌尿器科)
□研修期間 (3-6) カ月			
要件(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■(泌尿器科)領域における基本能力(診断学、治療学、手技等)が修得できる			
■(泌尿器科)科常勤医がいる。(5)名			

領域別研修：泌尿器科			
研修施設名	北海道立江差病院	都道府県コード 01	医療機関コード 16.1089.5
指導医氏名	田中 吉則	有する専門医資格(泌尿器科専門医)	専従する部署(泌尿器科)
□研修期間 (3) カ月			
要件(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■(泌尿器科)領域における基本能力(診断学、治療学、手技等)が修得できる			
■(泌尿器科)科常勤医がいる。(1)名			

領域別研修：眼科			
研修施設名	松前町立松前病院	都道府県コード 01	医療機関コード 15.1242.2
指導医氏名	橋本 雅人	有する専門医資格(眼科専門医)	専従する部署(眼科)
□研修期間 (3) カ月			
要件(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			

施設要件 （下記のいずれかを満たす）	
<input checked="" type="checkbox"/> （ 眼科 ）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる <input type="checkbox"/> （ ）科常勤医がいる。（ ）名	

領域別研修： 耳鼻咽喉科			
研修施設名	松前町立松前病院	都道府県コード 01	医療機関コード 15.1242.2
指導医氏名	白崎 英明	有する専門医資格(耳鼻咽喉科専門医)	専従する部署（耳鼻咽喉科）
□研修期間（ 3 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
<input checked="" type="checkbox"/> （ 耳鼻咽喉科 ）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる <input type="checkbox"/> （ ）科常勤医がいる。（ ）名			

領域別研修： 皮膚科			
研修施設名	函館中央病院	都道府県コード 01	医療機関コード 14.1004.9
指導医氏名	保科 大地	有する専門医資格（日本皮膚科学会）	専従する部署（皮膚科）
■研修期間（ 1 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
<input checked="" type="checkbox"/> （皮膚科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる <input checked="" type="checkbox"/> （皮膚）科常勤医がいる。（3）名			

領域別研修： 精神科			
研修施設名	北海道立江差病院	都道府県コード 01	医療機関コード 16.1089.5
指導医氏名	細田 さくら	有する専門医資格（ ）	専従する部署（精神科）
□研修期間（ 3 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
<input type="checkbox"/> （ ）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる <input checked="" type="checkbox"/> （精神）科常勤医がいる。（ 2 ）名			

領域別研修： リハビリテーション科			
研修施設名	函館稜北病院	都道府県コード 01	医療機関コード 14.1415.7
指導医氏名	堀口 信	有する専門医資格（リハビリテーショ	専従する部署（リハビリテ

専門研修プログラムの概要と診療実績

	ン科)	ション科)
□ 研修期間 (3) カ月		
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))		
研修の内容		
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する		
施設要件 (下記のいずれかを満たす)		
■ (リハビリテーション) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる		
■ (リハビリテーション) 科常勤医がいる。 (2) 名		

領域別研修： 緩和ケア科			
研修施設名	函館おしま病院	都道府県コード 01	医療機関コード 14, 1440, 5
指導医氏名	福德 雅章	有する専門医資格 (日本緩和医療学会 暫定指導医)	専従する部署 (緩和ケア科)
□ 研修期間 (3) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (緩和ケア) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
□ () 科常勤医がいる。 () 名			

領域別研修： 家庭医療科			
研修施設名	奈義ファミリークリニック	都道府県コード 33	医療機関コード 89. 0228. 9
指導医氏名	松下 明	有する専門医資格 (米国家庭医療専門医・ 日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医)	専従する部署 (奈義ファミリークリニック)
□ 研修期間 (3) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (家庭医療) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (家庭医療) 科常勤医がいる。 (3) 名			

※その他の診療科が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

その他の研修施設 (例：臨床疫学などの社会医学の研修や保健・介護・福祉関連の施設等での研修)

領域・分野：			
研修施設名			
指導にあたる医師名		有する資格 ()	専従する部署 ()
□ 研修期間 () カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
□ 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している			
□ 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している (具体的な関連性：)			

指導体制

- 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる
- 研修修了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること